小公演のための脚色
チャールズ・ディケンズの「クリスマス・キャロル」

Dramatization of *A Christmas Carol* by Charles Dickens for a Small Performance

能　勢　規　子

Noriko Nose

はじめに

本稿は2008年12月、京都府与謝郡与謝野町にある知遊館での小公演のために、イギリスの作家チャールズ・ディケンズの小説「クリスマス・キャロル」を脚色したものである。上演時間１時間以内、小学生から大人まで楽しめる芝居を念頭において脚色を試みた。

クリスマス・キャロル

１幕５場

キャスト

エビニーザー・スクルージ（金貸し）

ボブ・クラチット（スクルージの店の事務員）

ローラ・クラチット（ボブの妻）

マーサ・クラチット（クラチット家の長女）

ティム・クラチット（クラッチト家の末の息子、４歳くらい、病弱である。）

クラチット家の子供数人

フレッド（スクルージの甥）

ナンシー（フレッドの妻）

子供時代のスクルージ

ミラー先生（スクルージ子供時代の先生）

青年時代のスクルージ

フィジウィッグ氏（スクルージが青年時代奉公していた店の主人）

ディック（フィジウィッグ氏の店の奉公人、スクルージの後輩、15歳くらい）

ベル（スクルージ青年時代の婚約者）

ライト氏（実業家）

オニール氏（〃）

ジョー（廃品回収業者）

ディルバ（家政婦）

ビル（未来のスクルージの顧客）

キャロライン（ビルの妻）

ジェイコブ・マーレイ（声）（スクルージの元共同経営者）

過去の幽霊（声）

現在の幽霊（声）

舞台は18世紀半ばのロンドン。

１場　*スクルージの店。スクルージとボブが机の前にすわり、仕事をしている。店の中はか*

なり寒い。

フレッド　（*店にかけこんできて*）おじさん、メリークリスマス！　スクルージおじさん、神様のお恵みがありますように。

スクルージ　ふん、ばかばかしい！

フレッド　ばかばかしいって、まさか本気で言ってるんじゃないでしょう？

スクルージ　本気だとも、フレッド。世間の馬鹿どもは、やれプレゼントだ、やれパーティだと騒いでおるが、あんな無駄遣いをして何がうれしいんだか。クリスマスが来て、何か得することでもあるというのかね。

フレッド　ありますとも。僕はこの季節になると、優しい気持ちになります。困っている人を助けたいという気持ちになるし、悲しみや喜びを分かち合える家族があることに、感謝の気持ちが湧いてくるんですよ。

スクルージ　それのどこが得なんだ。一銭の儲けにもならんわ。

フレッド　おじさん、明日うちにいらしてください。一緒に食事をしましょう。ナンシーの妹たちも来ます。

スクルージ　遠慮しておくよ。おまえはなぜ結婚したのかね？

フレッド　恋をしたからです。

スクルージ　（*あきれたように*）恋をしたから？

フレッド　そうです。一度くらい、ナンシーに顔を見せてくださいよ。

スクルージ　いや、お断りだ。わしのことはほっておいてくれ。

フレッド　そうですか。しかたない。でももし気が変わったら、いつでも大歓迎ですから。

スクルージ　気は変わらんよ。またな。

フレッド　じゃ、また。（*帰り際にボブに小声で*）クラチットさん、楽しいクリスマスを。

ボブ　（*同じく小声で*）あなたも。

フレッド　ありがとう。

フレッドは退場。入れ替わりにハドソン氏が入ってくる。

ハドソン　こちらはスクルージ・マーレイ商会でいらっしゃいますか。

ボブ　そうです。

ハドソン　ご主人は？

ボブはスクルージを指し示す。

ハドソン　失礼ですが、スクルージさんとお呼びすればいいのでしょうか、それともマーレイさん？

スクルージ　マーレイは7年前に死にました。

ハドソン　それはお気の毒に。では今はお一人で経営を？

スクルージ　はあ。それよりご用件は？

ハドソン　これは失礼。（*身分証明書を差し出しながら*）わたくし、こういうもので。

スクルージ　（*身分証明書を受け取り*）バーナード・ハドソン、ロンドン・セント・トーマス教会第2伝道所・・・（*不機嫌な表情を浮かべ、身分証明書を突き返し*）寄付ならお断りします。

ハドソン　スクルージさん、食べ物や燃料もなくて、ぎりぎりの生活をしている人たちがたくさんいます。この季節、あなたのような裕福な方が貧しいものを援助することは----

スクルージ　そういう連中が行く施設があるでしょう。

ハドソン　数が足りないのです。施設に入れない人たちはこの寒さの中、凍死するしかな

い。

スクルージ　怠け者が凍死したところで、私の知ったこっちゃない。過剰人口が減って助かるってもんだ。

ハドソン　私たちの伝道所の活動にご協力いただけないでしょうか。

スクルージ　さっきも言ったでしょう。お断りだ。お引き取り下さい。私は忙しいんだ。

ハドソン　・・・失礼しました。

ハドソン氏は退場。

スクルージ　全くこれだから、クリスマスなぞいまいましいだけだ。ボブ、お前も世間並みに、明日は1日休みがほしいと思っているんだろう。

ボブ　はあ、あの、もしさしつかえなければ。

スクルージ　大いにさしつかえるさ。

ボブ　あの、あさっては早く出勤しますので。

スクルージ　ああ、せいぜい早く来るこった。丸1日も休めば、仕事を思い出すのにたっぷり時間がかかるってもんだ。

ボブ　では明日はお休みをいただきます。

スクルージ　ああ、全くいまいましい！何がメリークリスマスだ！

暗転。

2場　*スクルージの部屋。上手に大きなベッドがあり、スクルージが寝ている。暖炉の火は消えかかっている。夜の12時を知らせる鐘の音。鎖の音がだんだん大きくなる。*

マーレイ　エビニーザー、エビニーザー。

スクルージ　だ、誰だ？

マーレイ　誰だったかと聞いておくれ。

スクルージ　「誰だった」？

マーレイ　お前の元共同経営者の声を、もう忘れたのか。

スクルージ　その声はジェイコブ・マーレイ！（*ベッドから起きあがる*）

マーレイ　そのとおり。

スクルージ　（*立ち上がって、観客には見えないマーレイに向かって*）つまり君は、ゆ、幽霊なのか。

マーレイ　そうだ。

スクルージ　（*おびえながら*）ひ、久しぶりだな。

マーレイ　ああ。

スクルージ　ど、どうだい？　そっちの暮らしは快適かい？

マーレイ　とんでもない。前世でお前と一緒になって、さんざんあくどいことをやったせいで、つらく惨めな毎日だ。

スクルージ　わしと一緒に？

マーレイ　そうだ。でも、お前はまだ間に合う。

スクルージ　どういうことだ。

マーレイ　これからお前のところに3人の幽霊がやって来る。お前の過去、現在、未来のクリスマスの幽霊だ。その幽霊たちの言うことをようく聞け。わかったな。

スクルージ　おい、ジェイコブ。

マーレイ　まだ間に合う。（*鎖の音*）

スクルージ　おい、どういう意味なんだ？（*遠ざかるマーレイを目で追って*）ジェイコブ！　ジェイコブ！　・・・あくどいことだって？　わしは真面目に働いているだけだ。税金もきちんと納めておる。なぜジェイコブはあんなことを・・・。

過去の幽霊　　エビニーザー・スクルージ。

スクルージ　　はい！

過去の幽霊　　私が誰だかわかるか。

スクルージ　　あの、お出ましになると予告のあった幽霊様でしょうか。

過去の幽霊　そのとおり。私はお前の過去のクリスマスの幽霊だ。さあ、私についてこい。

スクルージ　　ど、どこへ行くのですか？（*激しい風の音と共に暗転。*）あー！

暗転。スクルージは舞台後方の高台の上に移動。風の音がしばらく続いた後おさまる。高台の部分が少し明るくなる。

スクルージ　　（*ひざまずいた姿勢で*）こ、ここはどこだ？

過去の幽霊　　いまからお前の眼下に、昔のお前が現れる。よく見るのだ。右の方に何が見える？

スクルージ　　（*立ち上がり*）あ、あれは・・・思い出した！　私が入っていた寄宿学校です。

舞台下手に照明。寄宿学校の教室。子供時代のスクルージがいすに座って本を読んでいる。ミラー先生が下手より登場。

ミラー先生　　スクルージ君、まだいたのですか。他の生徒はみな帰りましたよ。

スクルージ（子供時代）　　・・・。

ミラー先生　　お迎えは？

スクルージ（子供時代）は黙って首を横に振る。

ミラー先生　　じゃまた学校に残るんですね。

スクルージ（子供時代）はうなずく。

ミラー先生　　そうですか。風邪をひかないように。また新年に会いましょう。

スクルージ（子供時代）　　はい、ミラー先生。さようなら。

下手の照明Fade Off（以下FO）。

スクルージ　　あのころの私はひとりぼっちでした。クリスマスの休暇になると、友達はみんな家の人たちと楽しそうに帰って行きました。羨ましい気持ちを抑えて、本の世界に逃げるしかなかった。静まりかえった学校は、寂しくて、不気味で・・・。

陽気なヴァイオリンの曲が聞こえてくる。

過去の幽霊　　この音楽、覚えているかね。

スクルージ　覚えていますとも！　フィジウィッグさんの店のクリスマスパーティでは、みんな、この曲に合わせて踊ったものです。店のものも、近所の人も、フィジウィッグさんの親戚たちも。

フィジウィッグ　　（*OFFで*）おーい、エビニーザー、ディック！

舞台中央に照明。フィジウィッグの店。

ディック　　（*下手より駆け込んでくると、後ろを振り返って*）スクルージさん、はやく！

スクルージ（青年時代）とフィジウィッグがそれぞれ、下手と上手より出てくる。

フィジウィッグ　　今日の仕事はおしまいだ。さあ、パーティの準備にとりかかろう。店の中を片付けて、ダンスができるようにするんだ。

スクルージ（青年時代）・ディック　　はい、フィジウィッグさん！

フィジウィッグ　　肉にポテトにビールにワイン！　ごちそうをたっぷり並べよう。おっと、石炭を忘れていた。部屋が寒くちゃ話にならんからな。取ってくるから、頼んだぞ。（*上手に退場*）

スクルージ（〃）・ディック　　はい！

スクルージ（〃）　　ディック、すごいパーティになるぞ。ヴァイオリン弾きももうすぐやってくる。

ディック　楽しみだなあ。

スクルージ（〃）　見てろよ、パン屋のおかみさんなんて、踊り始めたら止まらないんだ。

ディック　ほんとう？　コールドビーフを腹一杯食べてもいいかな。

スクルージ　いいとも。肉もサラダもミンスパイも、食べきれないほどあるんだから。

ディック　フィジウィッグさんは親切な人だね。

スクルージ　ほんとうだ。私たちは、あんな心の大きな人のところで奉公できて幸せだよ。

照明Cut Off（以下CO）。

過去の幽霊　ダンスパーティなぞ、大したことでもないのに、ちょっとほめ過ぎではないかね。

スクルージ　いえ、そんなことありません。あの人は本当に周りの人たちを幸せにする人でした。

過去の幽霊　お前の店の使用人たちは幸せかね。

スクルージ　・・・・。

舞台下手に照明。教会の中。遠くから修道女の賛美歌が聞こえてくる。マリア像の前に青年時代のスクルージと婚約者のベルが立っている。

ベル　あなたは変わってしまったのよ。

スクルージ（青年時代）　変わってなんかいないよ。

ベル　じゃ、神様の前で正直に答えて。もし今私たちが出会ったとしたら、あのころと同じように私を愛して、同じようにプロポーズしてくださる？　この持参金の全くない私に。

スクルージ（〃）　・・・。

ベル　ほら、なぜ「もちろんだよ。」ってすぐに言えないの。今のあなたは、すべてお金を基準に考えているからよ。あのころ話し合った理想はどこへ行ってしまったの？

スクルージ（〃）　理想だけじゃ食べていけないよ。貧乏は不幸だ、いや罪悪だ。

ベル　婚約を解消してあげるわ。あなたにお似合いの金持ちのお嬢さんをお探しなさい。さよなら。（*退場*）

スクルージ（〃）　*（ベルを追いかけて）*ちょっと待てよ、ベル！

下手の照明FO。

過去の幽霊　お前に金よりも人を愛する心があったら、今頃は彼女と温かい家庭を持っていただろう。お前は自らの手で、孤独から抜け出すチャンスを潰してしまったのだ。

スクルージ　・・・おっしゃるとおりです。

過去の幽霊　もう時間がない。後は次に任せた。

スクルージ　次と言いますと？

風の音。暗転。

3場　2場と同じ。舞台後方に高台。

現在の幽霊　エビニーザー・スクルージー！

高台にいるスクルージに弱い照明。

スクルージ　はい！　あの、次の幽霊様で？

現在の幽霊　そうだ。私は現在のクリスマスの幽霊だ。まず君の甥の家をのぞいてみよう。

舞台上手に照明。フレッドの家。フレッドとナンシーはクリスマスパーティの飾り付けの準備をしている。

ナンシー　それでスクルージさんは何て？

フレッド　クリスマスなんてばかばかしいってさ。

ナンシー　まあ、ひどい。

フレッド　　何の儲けにもならないからだそうだ。

ナンシー　　どこまで金儲けすれば気が済むのかしら。あんなケチで偏屈な方を誘うのは、もうやめにしましょう。楽しい気分が台無しになるわ。

フレッド　　ははは、そうカリカリすることはないさ。結局損をしているのはおじさんなんだから。君のおいしい手料理を食べ損ねるなんて、大損だよ。

ナンシー　　そうかしら。

フレッド　　そうだとも。ナンシー、君の料理はロンドンで一番さ。

ナンシー　　ふふふ、愛情がたっぷり仕込んであるからよ。

フレッド　　僕はね、これからもおじさんを誘うつもりだよ。あの人は、僕が小さいときに死んだ母の唯一人の身内なんだ。母にはとても優しい兄さんだったらしい。つまり僕にとって、大切な身内なんだよ。

ナンシー　　そうね。じゃ私にとっても大切な人ね。

フレッド　　（*うなずいて*）ありがとう。気が変わって、来てくれることを祈ろう。

ナンシー　　たっぷりごちそうを作るわ。

照明CO。

現在の幽霊　　お前の妹はとても気だての優しい人だったな。

スクルージ　　はい。でも体が弱くて・・・。かわいそうなことをしました。（*思い出して涙ぐむ。*）

現在の幽霊　　ボブ・クラチットの息子も体が弱そうだ。

スクルージ　　はい。ティムはもう長いこと病気です。

下手に照明。ボブの家。ボブを中心にローラと子供たちが飲み物を手に座っている。

ボブ　　ティム、具合はどうだい？

ティム　　大丈夫だよ、パパ。

ボブ　　今年もこうして、みんなそろってクリスマスが祝える。ありがたいことだ。メリークリスマス！

ローラ・子供たち　　メリークリスマス！

ボブ　　神様のお恵みがありますように。

ローラ・子供たち　　お恵みがありますように。

ボブ　　みんなが健康で過ごせますように。

ローラ・子供たち　　健康で過ごせますように。

ボブ　　今日のごちそうを与えてくれた、スクルージさんの幸せの祈って。

ローラ　　ごちそうをくれたですって！　あのけちんぼが！　事務所の石炭までけちって、あなたはいつも風邪を引きそうなのに。

ボブ　　ローラ、子供たちの前だよ。それにクリスマスなんだから。

ローラ　　わかってますよ。仕事をくれるだけいいってことでしょ。確かにクリスマスだわ。あの鬼のようなスクルージさんの幸せを祈るんだから。

ボブ　　悪口はよそう。

ローラ　　はいはい。じゃ、形だけでも。スクルージさんの幸せを祈って。

ボブ・子供たち　　幸せを祈って。

マーサ　　じゃ、いつも氷部屋のような事務所で仕事をしているパパに感謝して。

ローラ・子供たち　　感謝して。

ティム　　パパがカチコチの雪だるまになり

ませんように。

ローラ・子供たち　　なりませんように。（*笑い声*）

照明FO。

スクルージ　　幽霊様、ティムは無事大きくなるのでしょうか。

現在の幽霊　　私には誰も座っていない小さな椅子が見える。暖炉のすみっこだ。もしこのまぼろしが未来の神によって変えられなければ、あの子は死ぬだろう。

スクルージ　　ああ、だめ、だめです！　あの子を死なせてはだめです！

現在の幽霊　　どうしてだね。過剰人口が減って助かるのではないのかね。

スクルージ　　・・・あ、あの言葉は取り消します。あの言葉は取り消しますから、ティムが、あの子が生きられるようにしてやってください、幽霊様！　お願いします！　幽霊様！

暗転。風の音。

4場　*スクルージの部屋。ベッドには死体がおかれ、ボロのシーツで覆われている。上手にかすかな照明。*

スクルージ　　（ベッドの前あたりで）ここはどこだ？（暗い中手探りで進もうとする。）

舞台下手に照明。路上。ライト氏とオニール氏が立って談笑している。

ライト　　いつ死んだんです、あの男は。

オニール　　昨夜らしいですよ。

ライト　　一体どうしたというんでしょう、あんな悪魔のようなやつがこんなに簡単にくたばるなんて。

オニール　　さあね。いずれにせよ、寂しい葬式になるでしょうな。あの男の葬式に行きたい人間なんて、まあ、おらんでしょう。

ライト　　豪華なランチが出るというなら、行ってもいいですがね。

オニール　　ははは。でもきっと何も出ませんよ。ケチは死んでも治りませんから。

ライト　ははは、全くだ。

下手照明CO。

スクルージ　　一体誰が死んだんだ？　それにしても暗いなあ。（*ベッドの方へ進んで*）おや、ここはわしの部屋か。いや、何か様子が違うそ。（*ベッドの上の人が横たわっているのに気づいて*）だ、誰だ？　わしのベッドを無断で使いやがって。おい！（*ベッドに近づいて*）このぼろぼろのシーツは何だ？　わしの毛布とカバーはどこへ行ったんだ？

舞台下手に照明。ジョーの店。

ディルバ　　（*カウンターに大きな包みをどさっと置いて*）ジョーのおやじさん、いるかい？

ジョー　　何だね、ディルバ。どうしたんだい、そいつは。

ディルバ　　こいつにいい値をつけとくれよ。

ジョー　　どこで手に入れたんだい？

ディルバ　　あの欲深じじい、とうとうくたばっちまったのさ。

ジョー　　それで一切合切かっぱらってきたってわけか。

ディルバ　　人聞きの悪いこと言うんじゃないよ。あたしゃね、雀の涙ほどの給金で、あのしみったれの世話をしてきたんだよ。これで、今までのただ働きの分を取り返すのさ。

ジョー　　（*包みの中を見て*）毛布にカバー、こんなもんまで持ってきたのか。

ディルバ　　死人が風邪引くわけでもないだ

ろ。代わりにぼろぼろのシーツを掛けておいてやったよ。

ジョー　　あいつ、伝染病で死んだんじゃなかろうな。

ディルバ　　それは大丈夫。保証するよ。

ジョー　　まったく自業自得ってもんだな。生きてるときに人間並みのことをしてりゃ、こんな身ぐるみはがされるようなこともなかったろうに。

ディルバ　　そうさ。そうすりゃ、看取ってくれる人の1人や2人、いたはずさ。あの人でなしが死んでくれて、喜ぶ人間がたくさんいるだろうよ。*（ジョーとともに楽しそうに笑う。）*

下手照明CO。

スクルージ　　こいつは死んでいるのか！*（おそるおそる近づき、顔を確かめようとしてためらう。）*

下手照明。ビルの家。

ビル　　キャロライン、あの男が死んだよ！

キャロライン　　スクルージさんが？！

ビル　　ああ。

キャロライン　　じゃ私たちの借金は誰に払うことになるの？

ビル　　わからん。でも後を引き継ぐ債権者が、あんな情け容赦ない男ってことは、まあないだろう。そのときまでに金の工面がつくかもしれんし。

スクルージ　　こ、これはわしの死体だったのか！

キャロライン　　ああ、今晩は久しぶりにぐっすり眠れそうよ。

ビル　　そうだな。この幸運を神に感謝しよう。

下手照明CO。

スクルージ　　これがわしの未来の姿なのか。なんて惨めな・・・。最後を看取ってくれるものもなければ、涙を流してくれるものはない。ただ1枚のボロにくるまれて、こんな哀れな姿をさらけだすことになるなんて。幽霊様！　未来の幽霊様！　どこいらっしゃるんですか。返事をしてください。今までのような生き方をしていれば、こういう最期を迎えるということなんですね。でも、もし今、心を入れ替えればどうでしょうか。今からでも遅くないですよね。幽霊様！　未来は変えられるとおっしゃってください。今わたしが変われば、こんな惨めな死に方をしないですむと、どうかおっしゃってください、幽霊様！

鎖の音。

スクルージ　　*（鎖の音にはっとして）*ジェイコブ、おい、ジェイコブ！　お前はまだ間に合うと言ったな。

マーレイ　　ああ、言った。

スクルージ　　わしは目が覚めた。今ならはっきりわかる。

マーレイ　　何がわかったんだ？

スクルージ　　人の不幸の上に成り立っている幸せなど、本物ではないということだ。こんな簡単なことを、いつの間に忘れてしまったのだろう。

マーレイ　　お前も私も、商売にかまけて利益を上げることばかりに夢中になっているうちに、大事なものを置き去りにしてしまったようだな。

スクルージ　昔味わった心の痛みも、わくわくして踊り出したくなるような気持ちも、すっかり忘れていた。

マーレイ　　人間らしい心を失っていたとい

うことだ。その結末がこの鎖だ。私は生きている間に自ら作ったこの長い鎖に縛られたまま、これからもさまよわねばならん。エビニーザー、お前はまだ間に合う。世界の美しさを目にするチャンスはまだ残されている。

スクルージ　ジェイコブ、よく訪ねてくれた。礼を言う。

暗転。

5場　*スクルージの店。*

ボブ　（*客席から登場。客席の通路で*）たいへんだ！　早く来るように言われていたのに。「ボブ、ちょっと話がある。」なんて言われたら、おしまいだ。「お前は首だ。」と来るにきまってる。（*舞台に上がる。*）

ボブはスクルージがいないことにほっとしながら、仕事の準備にとりかかる。

スクルージ　（*入ってきて*）やあ、ボブ。

ボブ　おはようございます。

スクルージ　遅かったね。

ボブ　申し訳ありません。ティムの具合が良くなかったもので。すぐ仕事にとりかかります。

スクルージ　ボブ、ちょっと話がある。

ボブ　あ、あの今度から遅刻しないようにしますので、どうか首にだけは・・・。

スクルージ　何を言っているのかね。そうじゃなくて給料のことだ。

ボブ　えっ、あ、あのこれ以上少なくなりますと、生活が・・・なにしろ子供たちもこれからが育ち盛りで、ティムの治療費も馬鹿になりませんし・・・。勤務時間が延びてもかまいませんから、お給料を減らすのは----

スクルージ　減らすのではなくて、増やす話だよ。

ボブ　・・・何を？

スクルージ　だから、君の給料だ。わしは君の給料を上げることに決めたんだ。

ボブ　・・・私は寝ぼけているんだろうか。これは夢か？

スクルージ　夢じゃない。まぎれもない現実だ。

ハドソン氏が下手より登場。

ハドソン　やあ、スクルージさん。

スクルージ　やあ、ハドソンさん、お呼び立てして恐縮です。

ハドソン　いえいえ、寄付をしていただけるなら、どこにだって参上しますよ。

スクルージ　ハドソンさん、先日はたいへん失礼いたしました。

ハドソン　お気持ちが変わられたようで。

スクルージ　はい。

ハドソン　いや、クリスマスはいいものです。あなたにも神の御心がとどいたようですな。

スクルージ　神の御心というより、幽霊の脅かしといましょうか・・・。

ハドソン　幽霊の脅かし？

スクルージ　いや、こちらの話で。えー、小切手でもよろしいでしょうか。

ハドソン　もちろんです。

スクルージ　ではこれで。（*小切手を渡す。*）

ハドソン　これはすごい。

スクルージ　いえ、今までの未払いの分を考えますと、それでも足りるかどうか・・。

ハドソン　これだけあれば、たくさんのものに温かい食事を出すことができます。

スクルージ　お役に立てれば、こんなにうれしいことはありません。

ハドソン　　ありがとうございます。またうかがってもよろしいでしょうか。

スクルージ　　もちろんです。

ハドソン　　ではまた。（*退場*）

ボブ　　スクルージさん、今日は何だか変ですよ。

スクルージ　　こんな晴れ晴れとした気分は何十年ぶりだろう。ボブ、石炭を買ってこい。部屋を暖かくして、これからの相談をしよう。

ボブ　　はい。

フレッドが下手より入ってくる。

フレッド　　おじさん、クラチットさん、おはようございます。

ボブ　　おはようございます。

スクルージ　　やあ、フレッド。昨日はすっかりごちそうになったな。

フレッド　　おじさんが来てくださるなんて、実はあまり期待してなかったんで、うれしかったです。ナンシーも喜んでいました。

スクルージ　　（*ボブに*）ナンシーの料理はどれも絶品でな、つい食べ過ぎてしまったよ。ブレッド、お前はいい人とめぐりあったな。心から祝福するよ。

フレッド　　ありがとうございます。実は新年にも、今度は近所の人を招いてパーティをしようと計画してるんです。そのお誘いをしようと思って。

スクルージ　　ありがとう。ぜひ行かせてもらうよ。

ボブ　　クラチットさんもご一緒にいかがですか。

ボブ　　いいんですか。

フレッド　　もちろんです。　奥さんや子供さんたちもお連れ下さい。

スクルージ　　そりゃ、いい。ティムにも楽しいことが必要だ。

ボブ　　じゃ喜んで。

スクルージ　　フレッド、お前は正しかった。

フレッド　　え？

スクルージ　　クリスマスには得になることがたくさんあるってことだ。

フレッド　　ほら、僕の言うとおりだったでしょ。

スクルージ　　ああ。来年も、再来年も、これからずっとクリスマスを祝うぞ。未来があるってことはすばらしい！

明るい雰囲気の中、幕が下りる。

使用テキスト：Dickens, Charles *A Christmas Carol* London: Penguin Books Ltd, 2008